
美女の悩み

こをり

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

美女の悩み

【Nコード】

N5571N

【作者名】

こをり

【あらすじ】

美女と根暗の恋

でも、それは全部嘘なんだよ？

はあ・・・

ちよつとため息をつくとり巻きが男子が一斉に心配し始める
大丈夫？保健室行く？ため息ついてても絵になるなあ・・・
本当にうるさいなあ

もちろんこの取り巻きは私が望んでできたわけじゃない
勝手に出来て勝手に親衛隊？とかほざいてるだけ

私はあんた達に守ってもらいたいんじゃないのよ！

なあんて言えるわけもない。

女王様キャラじゃなく、私はか弱いお姫様タイプだからだ
コレは作ったんじゃない？本当にか弱いからよ？

小学5年生まで入退院を繰り返して中学3年生になった今やっと普
通に生活できてるってわけ
体はか弱い。でも心は普通なんだから！

「あの、ちよつと保健室行ってくるね？」

この一言で男子の心に火がついたのか着いて行くだなんて言い出した
冗談じゃない！慌てながらやんわりと断った

「はあ・・・疲れた」

あの親衛隊とか言う男子達のおかげで女の友達が一人も出来ない
このままじゃ駄目だと思ったときには全員敵になっていた
ああ転校しようかなあ

あ、本当に気分悪くなってきた・・・
ふらふらしていると何かにドンツとぶつかった

「いたっ！」

「あ、ごめんなさい！」

「え、あ・・・いえこちっこそ・・・」

「前見てなかった私が悪いの！本当にゴメンね？」

「・・・体調悪いの？」

「ちよつとね？気分が悪くなっちゃって」

「へーき？」

「大丈夫！これくらい慣れてるわ！」

確かあいつは隣のクラスの高野コユキだっけ？

女の子みたいな名前だったからなんとなく覚えていた
でも名前とは違い髪が長くてちよつと猫背

確か女子が根暗だとかオタクだとか言ってたけど

「ほとんど嘘じゃない」

「・・・え？」

「根暗だとかオタクだとか・・・あ、オタクは私が勝手に否定でき
る事じゃないわね」

「俺オタクじゃないけど」

「そ？髪の毛上げたら？」

「え？え？」

「そっちの方がカツコいいわ・・・でもなんだか勿体無いかも」

コユキは？マークを出していたけど私は気にしなかった

んーこの感じ・・・なんでかしら？

「たぶん、独占欲ね？」

「（この人の思考回路が分からない）」

「ねえココキ？」

「・・・えっ！？名前？」

「あ、私の名前知ってる？」

自己紹介もせずに話し込んだから今頃気づいた
慌てて聞くと建てにうなずいてくれた（よかった）

「知ってるよ？有名だし」

「有名？それは皮肉ととっていいのかしら？」

「え！そんなんじゃないよ・・・」

「私高校は遠い所に行くの！それで普通に女の子とお弁当食べるの
が夢・・・変？」

「・・・俺も」

小声で聞き取りづらかったけど私はちゃんと聞こえた
なんだかもっとお喋りしたくなってきた

「俺もこんな自分を知ってる奴等と離れて男子とゲーセン行きたい」

「決まりね！」

「・・・な、なにが？」

真直ぐ私を見ながら言ってくれた夢は素敵で、私と似ていた
この時間で私は気づいた
今日からきつと学校が楽しくなるわ！

「ココキ！私と付き合ってください！」

「・・・え」

「嫌だつて言っても好きになつてもらえるようにがんばるわ」

「ちよ、ちよっと待って！な、なんで？」

「この夢を話したら回りは絶対バカにしたの」

そついうとココキは黙つて私の目を見ながら話を聞いてくれた

それが嬉しくて、嬉しすぎて涙がボロボロ出てきた

女子は仲良くしようとするればするほど悪口を言われた事、男子に体操服や水着を取られた事、

親友が欲しい事、恋人が欲しい事、顔の事を責められても親から貰つた大事なものだからどうしようも出来ない事。

それを言つとココキも抱えていた事を話してくれた

女子からは悪口言われるのは一緒だね、体操服は昨日破られちゃつたんだ、

親友は作れたことないなあ、恋人なんてもつてのほか、顔に傷があるから髪の毛で隠してるんだ

似てるね、私達

似てたね、僕達

「私ココキのこともっと好きになつたわ」

「告白されたの人生で初めてだよ」

「私も告白したのは初めて」

「俺と一緒にいたら影口叩かれるよ？」

「ココキは嫌？私は本当の私を知らない奴に何を言われても平気だわ」

「・・・俺は君の声だけを聞くことにする」

そつ言つて笑つたココキは可愛くてカッコよかった

抱きしめておでこにチューをしてくれた

あと1年、私達は仮面をかぶって生活する事を決めた
それから先は・・・お楽しみ、とでも言っておこうかな？

じゃあ、また1年後！

(後書き)

あーこんな恋してみたい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5571n/>

美女の悩み

2010年10月9日05時05分発行